

平成28年度放射線などに関する教育研修協議資料

学校名	<小・中 48> いわき市立 泉北 小学校
<実施日>	平成27年 5月 17日 (火)
<実践教科等>	※当てはまる番号に○をつけてください。4は、() に教科等を入れてください。 1 理科 2 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他 ()
<実践内容>	各学年、放射線に関する内容を学級活動に2時間位置づけている。 実践内容：第3学年 「放射線って何だろう」 ねらい：射線とは何かを理解し、身の回りの放射線に興味を持つことができる。 事前の聞き取り調査から、放射線などについてあまり知識やイメージを持っていない児童が多いことが分かった。また、ほとんどの児童がよく理解できていないものの、福島第一原子力発電所事故のニュースなどからあまり良くないイメージを持っていることが分かった。それらの実態を踏まえ、副読本や紙芝居を活用して、放射線がどのようなものであるか理解できるように授業を行った。 (1) 放射線について知っていることを話し合う。 ・放射線について知っていることを発表させ、それをもとに黒板にイメージマップを作成した。「東日本大震災」「原子力発電所」「あぶない」「体に悪い」などがあがったが、放射線とはどのようなものなのか具体的に説明できない、よく分かっていないことをおさえて、放射線について学んでいく必要性を持たせた。 (2) 放射線について知る。 ① 身の回りの放射線 (宇宙・地表・空気・食べ物) ② 放射線と放射線を出す物 (放射性物質・放射能・放射線) ・紙芝居「ハウシャ線ってなんだろう!？」を使用して自然界には放射線が存在していて、普段から放射線のある中で暮らしていることをおさえた。またイメージを持ちやすくするために放射性物質を電球に、放射線を電球から出る光に例えて説明した。 (3) 放射性物質が多い場所について知る。(雨どい、側溝、木の根元、) (4) 放射線から身を守るために実行することをまとめる。 ・正しい知識を身につけ、落ち着いて行動することをおさえた。
<成果>	紙芝居を使用したことにより、3年生でも分かりやすく、放射線のイメージを具体的に持つことができた。また、放射線が元々自然界にあり、普段から少量の放射線を浴びていることを知ったことで、安心していた。給食の牛乳を停止していた児童が家庭で話し合い、給食の牛乳を飲むことになった。
<課題>	震災当時は幼かったため、東日本大震災当時の様子を詳しく知らない児童が多い。九条区域外就学児童も4名おり、不必要に恐怖心をあおることのないようにする指導が大切だと感じた。また、教師自身が放射線についての研修をしていく必要性を感じた。